

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

事後評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-2	公共交通ターミナル整備の空間経済分析に関する研究開発	東京工業大学教授（研究当時：金沢大学准教授） 准教授 高山 雄貴	A

＜研究の概要＞

本研究では、公共交通ターミナル整備がもたらす長期的・広域的な効果の空間分布を計量化するための空間経済分析手法を開発する。具体的には、公共交通ターミナル整備が都市内交通・土地利用に与える影響を評価する手法と、高速バス網の拡充による周辺地域への波及効果を評価する手法を開発する。そして、これらの手法により、実都市（札幌、金沢を想定）でのターミナル整備により長期間・広範囲に渡って発現する効果を計測する。

＜事後評価結果＞

- ・学術的にも実務的にも非常に有用な成果を挙げた。
- ・交通・立地統合モデルおよび SCGE モデルを用いた分析枠組みを構築するとともに、バスタなどのターミナル整備効果を実際に分析したものであり、ターミナル整備効果の分析枠組みの確立という点において、将来につながる大変有用な成果が得られたものと考えられる。
- ・公共交通ターミナル整備がもたらす長期的・広域的な効果を計量化するための、理論的に精緻な空間経済分析モデルが、実証とともに提示されている。
- ・バスタ整備が効果的であるという条件について示されている。成果は上がったものと考えられる。
- ・信頼性を高めるため、様々な個所での分析が必要だと思われる。
- ・実務への適用には一層の事例蓄積・データ整備等が必要であるが、様々な道路政策によるストック効果の空間分布計測の基盤となり得る成果を得た。

このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。

＜参考意見＞

- ・一定の研究成果があったと考える。過去の実績値との比較より再現性の検証からモデルの感度分析を行い、社会実装されることを期待する。また、現時点の研究成果において、実務へ適用できる研究成果については、とりまとめ等を行い実務で適用されることが望ましいと考える。
- ・研究成果も非常に充実しており、レベルの高く実用的な内容である。